

氏 名 八木 順子
学位記番号 医博乙第236号
学位授与年月日 平成18年1月11日
審査委員 主査 教授 齊藤 洋司
副査 教授 藤田 委由
副査 教授 太田 明

論文審査の結果の要旨

上部消化管内視鏡検査は胃癌の早期発見などに極めて有用な方法であるが、従来の経口内視鏡検査では被験者の負担が大きく、血圧上昇、低酸素血症などの問題が指摘されている。申請者は、上部消化管検診者を対象に経鼻内視鏡検査の呼吸循環動態への影響、被験者の受容性について検討した。対象者450人を細径スコープによる経鼻内視鏡検査 (XP-N) 群、細径スコープによる経口内視鏡検査 (XP-O) 群、通常スコープによる経口内視鏡検査 (XQ) 群の3群に分け、施行時の末梢酸素飽和度 (SpO_2)、血圧、脈拍数、rate-pressure product (RPP) の変化および嘔吐反応についてprospectiveに比較検討した。XP-N群では被験者の満足度についても調査した。XP-O群、XQ群では検査2分後に SpO_2 の低下がみられたが、XP-N群では認められなかった。XQ群では検査直後より血圧、脈拍数、RPPが著明に上昇し、検査終了時まで持続したが、XP-N群、XP-O群ではこれらの上昇は軽度であり、前値への回復も早かった。嘔吐反応回数はXP-N群で有意に少なく、検査後アンケート結果においてもXP-Nの満足度、受容性は高いものであった。これらの結果は、細径スコープによる経鼻内視鏡検査の有用性ならびに安全性を証明するものであり、本法の臨床における発展性を支持するものである。